

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの理念を掲げて、ホーム内に掲示している。理念の意味を職員間で共有し、実践出来るようにしている。	1階の地域交流スペースに法人「大志会」の基本理念を掲げ、「大手門の家」理念をホーム内に掲示し共有して、相手の立場を考え、個々の価値観を捉えたケアに、笑顔で取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	普段からお世話になっている薬局や商店、幼稚園など散歩を兼ねて寄らせていただいている。	事業所は上田市中心の商店街に隣接され、散歩に出かけて買い物をしたり、幼稚園の園庭から聞こえる元気な子どもたちの声を聞くなど、立地条件を生かした地域交流に努め、お店や薬局と顔馴染みになっていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の報告書にて、どのような関わり方をしているのか、また支援方法について報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍に伴い会議の開催は自粛しているが、2か月に1回、文書で報告させていただき、その際に意見交換をしている。	コロナ禍の為、会議は開催せず文書連絡のみで行い、書類郵送後には電話連絡で意見を交わすなど、情報収集や交流継続に努めていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談事案がある際は市担当課へ出向き、話し合える時間を設けていただいている。	手続き更新時には市役所に出向いて、担当者に事業所内の様子を伝えたり、市内の状況を聞き取るなど情報交換を図り、連携に努めていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を通し勉強会を行っている。毎月管理者がラウンドを行い、身体拘束の有無を確認し、必要があれば指導している。	身体拘束委員会を設置し、必要に応じて対応し、拘束しないケアに努め、グループホームの入口から同階に隣接する特別養護老人ホームへの行き来も自由に出来るようになっていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を通し勉強会を行っている。職員に向けて、施設内で虐待についてのアンケートを無記名で実施し、未然に防げる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ケアマネ間の勉強会で学び、関わる職員へ成年後見制度の仕組みについて説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、ご家族の、時間に余裕が持てる日程で調整し、説明は丁寧に分かりやすく行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍のため面会制限はあるが、面会日のアナウンスや、職員からご家族へ報告を連絡する際、利用者様と直接通話していただく取り組みをしている。	コロナ禍の為、制限された環境ではありますが、電話でのやり取りや短縮時間内での面会を認めるなど、ご家族との交流の中で要望や希望を聞き取り、その後の運営に望まれていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月会議を実施するとともに、毎日ショートミーティングを行い、入居者様の些細な変化も見落とさないよう職員間で情報共有し、支援に繋げている。	一人ひとりの職員が「入居者が自分らしく暮らせる生活」の提供に心がけ、温かく明るい職場を築き、毎日行うミーティングの中で、職員個々の率直な意見を出しあえる雰囲気となっていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価制度キャリアパスがあり、本年度は職員4名が昇格した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々の資質向上のための勉強会や資格取得の働きかけ、勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の勉強会はオンラインで行い、法人内の勉強会は日程を分散し行った。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員の関わりを多く持ち、言動や表情、不安要素の有無を把握しながら、支援方法を統一するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学、契約、入居時に要望等の確認を行っている。ご家族の意向に沿えるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員の関わり方、物品、用具等の必要性を図りながら選定を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、ご本人の暮らしをサポートさせていただき姿勢で関わるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いや要望を職員間で情報共有し、ご本人の支援だけでなく、ご家族の思いも支援できるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染症に伴い面会制限はあるが、面会日の他に、ご家族と電話で話をする取り組みをしている。	今までコロナ禍で外出制限はありましたが、今後は商店街に出かけたり、ドライブする機会を設けるなど、馴染みの場所に出かける計画を立てていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士で声を掛け合えるよう職員が介入している。特に入居者様がダイニングへ集まる食事、体操時は席の配置等配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後もウエス用の布や、古新聞等の寄付をして下さる。ご家族の様子やご本人の思い出話をしながら、良い関係性を築けるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様個々の生活ペースに合わせた支援を行っている。時々の気分、不調の有無に合わせ支援している。	「本人らしさ」に合わせた介護に努め、誕生会ではケーキ作りを楽しんだり、「体操の先生」の訪問を楽しみにするなど、入居者の楽しみに繋がる支援を展開されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談時にご本人から聞き取りを行い、担当ケアマネージャーへの同席を依頼することがある。ご家族には改めて時間を設け、聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シートを利用し生活リズムを把握、必要な支援に繋げている。状態の変化や発せられる言葉、様子などを介護記録へ記載し、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ショートミーティングで入居者様の細かな変化について情報共有している。支援内容に沿った実施モニタリングを、職員が毎日実施の有無を確認し、月末に総括を記載。介護計画へ反映できる取り組みをしている。	タブレットで入居者個々の日々の情報を共有し、毎日のショートミーティングで、その後の支援方法を確認し合い、現状に沿った介護支援を行っていました。その後、職員全員で介護計画の見直しに繋げていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援内容、バイタル測定値、排泄状況、食事量等の介護記録は電子化されており、多職種も各部署で閲覧することが出来る為、迅速に情報共有が行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍の為、ご家族と過ごす時間が制限された。屋外へ出かける事もできず、屋上庭園の散歩や施設周辺の桜を見る程度の取り組みのみ行えた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの受け入れ、地域の行事、施設全体行事はコロナ禍の為自粛。コロナ感染症5類移行後に、屋外活動を予定していく。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の定期回診時に健康相談している(週2回内科、月2回精神科)。ご家族の希望や必要時に、主治医と十分な話し合いが出来るよう調整している。	安藤病院と協力体制を結び、定期回診を実施し、緊急時にも安心出来る体制を整えていました。入居者のかかりつけ医への受診希望を聞き、希望に沿った対応に努めていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設看護師と情報共有し、体調変化の際や必要な処置を受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期回診時に細かな体調変化も医師へ伝え、早期治療が受けられるよう連携している。入院治療が必要な際は、医療機関やご家族と連携を図り、入院後の状態把握を行い、早期退院に向け調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「看取りに関する方針」、「利用者の自己決定」(生前指示書)の説明を書面で行い、意向確認している。体調変化が生じる際は、その都度意向の確認を家族と行っている。	入居時の確認はとれていますが、急変時には再度確認を繰り返し、ご家族や本人の希望に沿った医療ケアを展開されていました。一旦入院されても日々医療機関と連絡を取り合い、嚥下状態に問題がなければ引き取って診るなど、その時々で最善で最適な支援に取り組まれていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設勉強会で緊急時の対応を学んでいる。夜間帯は施設看護師がオンコール体制となっており、緊急時はすぐに駆けつけて状態把握を行ったり指示をしたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練と職員の災害時緊急連絡訓練を行っている。災害時には近隣の協力を得られるよう依頼している。建物4階に飲料や食料、ガスコンロ等備えがある。	施設が4階にある為、廊下窓から下に望むコンビニの駐車場への避難方法は、地元消防署と確認し合い、緊急時体制を整えていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけないよう配慮している。入居者様個々の性格や性質、暮らし方を職員が把握し、場面ごとに対応している。	開放的な暮らしを好む入居者に配慮をし、部屋の入り口にのれんを掛けたり、支援状況の違いに伴い、自室での楽しみが増すよう廊下に飾られているバルーンアートを部屋内に装飾するなど、場面ごとに配慮がみられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活場面で自己決定できるよう声をかけている。意思表示の困難な方へは表情や仕草を観察し、思いを知るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様個々の生活ペースに合わせた支援を行っている。時々の様子で食事を摂る場所、時間も臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常着はご本人が選定出来るよう声かけし、一緒に選ぶことがある。毎月訪問理美容を利用し、好みの髪型にいただき、美容師の方とお話するのも楽しみとなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様と毎年仕込んでいる味噌や畑で収穫した野菜を使い、献立を決めることが楽しみとなっている。毎食、食事前に挨拶をして下さる、食事前後のテーブル拭きをして下さる等日課となっている。	複合型老人福祉施設のため、法人内に給食室を設置し管理栄養士を配置した、栄養バランスのとれた食事の提供を行っていました。屋上にある畑で、利用者と職員と一緒に耕作して収穫した野菜をみそ汁の具に使い、みんな収穫を喜んでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量を記録に残し、摂取量の把握をしている。体調に合わせ食事形態で柔軟に提供し、必要があれば管理栄養士を交えて相談させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯ブラシ、歯磨き粉を使用し口腔ケアを行っている。個々に合わせた支援を行い、夕食後は洗浄剤を使用して義歯の清潔保持に努めている。義歯の不具合や口腔内の異常が出現した際は、迅速に歯科受診の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介護記録から、排泄状況や間隔を把握し、さりげなくトイレの促しをしている。排泄用品を随時見直して個々に合わせた排泄用品を提供している。起床時の排泄の際に感染予防も含めて洗浄液を使用し、陰部洗浄を行っている。	日中は、布パンツやリハビリパンツを使用して、個々の排泄間隔や情報を共有しながら、自発的で無理のない誘導を心掛けていました。夜間はゆっくり休んで頂けるように配慮し、その時々状況に合わせた排泄支援を行っていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	介護記録で排便状況を確認し、水分を多く摂れるよう工夫している。必要な方は下剤や座薬を使用し慢性的な便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	希望に合わせて入浴して頂いている。好みの湯温、シャンプー、ボディソープを使用し、入浴剤をいくつか用意して香りも楽しめるよう工夫している。気分が乗らない、拒否がある際は、時間を置いたり職員を代えてみたり、日程を変更したり等行っている。	その日の体調や気持ちをくみ取り、週に2回の入浴を目標に実施されていました。入浴時は、個々の希望に沿ったシャンプーや入浴剤を使用して、気分よく入ってもらえるように工夫されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床、就寝時間は決まっておらず、個々の生活ペースに合わせている。起床後はベッドメイキングを行い、日中でも気持ちよく使用できるよう整えている。夜間眠れない時は職員と過ごし、温かい牛乳、お茶を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬変更時は薬による変化を記録し、看護師や主治医と情報共有している。回診時、直接職員が医師と話せるよう取り組んでいる。服薬支援の際は、飲みこぼしが無いよう声出し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々が日課となっている役割を、継続できるよう支援している。屋上庭園での畑作業の手伝い等、入居者様同士がおしゃべりを楽しめる工夫をしている。おやつ作りをする際は、施設で出されないような、かつ入居者様が食べたい物を提供出来るよう、聞き取りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為外出は自粛している。5類へ移行後は徐々に外出の機会を作っていく。ご家族との外出も提案していく。	今までは、コロナ禍で外出制限がありました。が、今後は以前のように商店街を散策して、毎日散歩が出来るように計画していました。早速出かけましたが久しぶりの外出だったので、歩き始めにふらつきがみられ、改めて慎重な取り組みを計画されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が金銭管理はしていない。必要時にご家族と相談させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を所有している方は時間の制限無く通話していただいている。コロナ禍もあり、ガラス越し面会その他に、電話を通して直接声を聞いていただく取り組みをした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内は換気をしながら、適温に保つようになっている。排泄後は清掃、消臭剤を使用し、排泄臭が残らないようにしている。閉塞的にならないよう開放感のある大きな窓から外を眺められるようにしている。	室内は、木目調のポップな文字を表示に用い、明るい雰囲気を作り、バルーンアートの可愛い装飾でコロナ禍の閉鎖的雰囲気を和らげていました。各部屋の入り口の暖簾は、個々のプライバシーを考え、それぞれの目印にもなり、居心地の良い安心できる生活を提供されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同スペース3か所に長ソファがあり、自由に過ごせるようにしている。日中は入居者様同士が居室へお邪魔し過ごすこともある。職員は危険のないよう見守りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の状態に合わせて居室内の配置をしている。自己管理できる方は使い慣れたテーブルや馴染みの物が置かれている。	部屋の壁の装飾も絵や写真など、部屋によって異なり、廊下に飾られているバルーンアートを寝たきりの方の部屋に持ち込むなど、利用者目線で楽しめる工夫に取り組みされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	更衣や歩行状態、食事の自力摂取等、身の回りの「出来る」ことの継続を支えるために、職員の関わり方や物品の選定など工夫をしている。		